

申請者名

公益社団法人港区シルバー人材センター

体制図

公益社団法人港区シルバー人材センター ⇒管理者:栗栖 弾
 ⇒基本講座担当:リーダー会員1名※デジタル活用支援員予定
 ⇒基本講座担当:会員6名※デジタル活用支援員予定
 ⇒応用講座担当:後藤 充伯※デジタル活用支援員予定

協力団体:東京しごと財団

講習会等の実施計画

令和3年度デジタル活用支援推進事業 講習会実施計画

講座	基本講座	応用講座
講座内容	iv インターネットの使い方[1H] v メールの使い方[1H] vi 地図アプリの使い方[1H] vii LINEなどのSNSの使い方[1H]	i マイナンバーカードの申請方法[1H]
講座コマ数 (時間数)	奇数回 (上記基礎講座の内2つ組合せ)実施×7日分=14コマ[14H] 偶数回 (基礎iv + 応用i)実施×7日分=14コマ[14H] 講習会開催要件(28コマ) 全14日(第1回から第14回まで) 第1.2回、第3.4回、第5.6回、第7.8回、第9.10回、第11.12回、第13.14回は2日完結型として同じ受講者に実施	
担当	公益社団法人港区シルバー人材センター	協力団体:東京しごと財団
実施拠点	第1回から第4回 港区シルバー人材センター研修室 定員30名 第5回から第14回 各いきいきプラザ 集会室 定員20名	
講師	デジタル活用支援員(シルバー人材センター会員)候補7名 デジタル活用支援員(協力団体:東京しごと財団)	候補1名 合計8名

基本講座

	電源の入れ方等	電話のかけ方等	アプリ等	ネットの使い方等	メール等の使い方	地図アプリの使い方	SNSの使い方	オンライン会議	安心・安全
実施コマ数	0	0	0	7	7	4	3	0	0

応用講座

	マイナンバーカード	マイナポータル	マイナポイント	e-Tax	オンライン診療	地域オンライン行政
実施コマ数	7	0	0	0	0	0

支援員数	アシスタント数	基本講座：実施コマ総数	応用講座：実施コマ総数
8	0	21	7

講師を確保・養成・管理

スマホ教室の講師を行っている会員で構成する。毎年20回から40回スマホ初心者の港区民に対して講師名体制で受講者10名のスマホ教室を実施しています。管理体制については、組織窓口は管理者とし、講師の中からリーダーを設置し、全員に連絡できる体制を構築します。執行団体様が主催する研修を受講後に講習に関わる講師全員でチェックポイントの共有を行い、さらに、講習の質を向上させるためにブラッシュアップ勉強会を定期的実施します。

講習会等の実施イメージ

아이폰版バージョン 港区シルバー人材センター 事業全体概要図

実施場所	港区シルバー人材センター 研修室、いきいきプラザ 集会室
デジタル活用支援員	港区シルバー人材センター スマホ教室講師(会員)
協力組織・企業	港区、東京しごと財団
支援対象・使用機器	スマホを持っていない又はiPhoneを持っているが取り扱いに慣れていない(初心者)高齢者(iPhone持込型)
講師スキル・レベル	区立いきいきプラザ指定管理者受託 実績 令和2年度 受講人数380人 講座回数 42回、令和元年度 受講人数250人 講座回数 26回、平成30年度 受講人数240人 講座回数24回
講習会概要	<p>高齢者がデジタル化がもたらす利便性を享受できるように、港区シルバー人材センターのスマホ教室では、スマートフォンが生活や仕事の場面で便利に活用できるツールとして、シニア講師(シルバー人材センター会員)がスマホの機能や使い方を紹介している。</p> <p>デジタル活用支援推進事業の「基本講座」では、シニア講師がデジタル活用支援員として、スマホの使い方について「利便性」「楽しさ」を実感してもらえる講義を行う。また「応用講座」では、スマホによるマイナンバーカードの申請方法について説明する。</p> <p>港区民である会員だけを対象とするだけでなく、より多くの参加者を確保するため、ホームページや港区広報を活用し、港区民を対象として区の高齢者施設(いきいきプラザ)で講習会を実施する。</p> <p>将来的には、活用支援員の体制を強化して、区内の区高齢者施設(いきいきプラザ)の実施拠点を増やし、より多くの参加者を確保する。さらに持込可能端末をiphone限定からアンドロイドまで可能となるよう体制を強化し、利用者の多様なニーズに対応したい。</p>

